

税と教育

岩内町立岩内第一中学校 三年 金本 椋

私がある日、学校で授業を受けている時、教科書の裏面をふと見たら、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」とあった。

私は、教科書が税金でまかなわれていることは知っていたが実際にどの程度税金が使われているのか、さらに皆さんへの期待とは、どのようなものか、これを機に調べてみることにした。

私たち中学生にとって、一番身近に税金が使われている所といえば、学校を思い浮かべると思います。財務省の資料によると、学校の校舎や体育館、教科書など、色々なものが税金でまかなわれています。一年間で一人あたりの中学生に使われる金額は約九十七万九千円と百万円近くのお金が使われています。もし私たちが税金を払わなかったら、学校に行き、勉強するだけでも約百万円のお金が必要になり、学校に行けない人ができるかもしれません。

そのことを考えると税金があつて良かったなと思いました。

もう一つ、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、とあります。私がこれを見た時、日本の教育の環境はすごいなと思いました。経済的な面もありますが、学校ごとにお金を渡すのではなく、一人一人に同じだけ平等に教育を受けさせてくれるというのもよい所だと思います。ですがこれを実現させているのは、日頃から税金を払っている日本国民の力だと思います。

私も大人になったら、税金をしっかりと納めようと思いました。そして、次の世代やその次の世代にもつないでいける良くできたシステムだと思いました。

一方で、発展途上国では、学生一人に対する政府の支出額が、日本やアメリカといった先進国よりも低い傾向にあります。アフリカの国では教育予算の多くが教員の給与などの経常支出にあてられているため、学生一人に教育のために使われている税金は、先進国よりもはるかに少ないことがわかった。

なので、これからは、自国だけではなく、発展途上国にも十分な教育を受けさせることが課題となってくる。

これからは、税やその仕組みを作っている国に感謝し、納税していこうと思う。